

2023 年 2 月 1 日

環境大臣 西村 明宏 様

日本野鳥の会ひょうご
代表 岩崎 健二
〒651-0012 兵庫県神戸市中央区北長狭通
7丁目3-7 北長狭ビル3F

公益財団法人日本野鳥の会
理事長 遠藤 孝一 (公印省略)
〒141-0031 東京都品川区西五反田 3-9-23
丸和ビル

**兵庫県の「(仮称)南あわじ風力発電事業」に係る風力発電施設の建設予定地およびその周辺
における渡り鳥や希少鳥類の生息環境保全に関する要望書**

日頃より日本野鳥の会の自然保護活動にご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。さて、前田建設工業株式会社が兵庫県南あわじ市で計画している「(仮称)南あわじ風力発電事業(以下、対象事業という)」について、日本野鳥の会は風力発電施設の建設予定地およびその周辺(以下、計画地という)に生息する渡り鳥や希少鳥類の生息環境保全の観点から下記の点について要望いたしますので、当該地域の豊かな自然環境の保全のため、よろしくお取り計らいくださいませうようお願い申し上げます。

記

1. 要望内容

計画地が国内における渡り鳥の主要なルートおよび中継地になっていること、国内希少野生動物種であるコウノトリの営巣が確認されていること、留鳥としてミサゴ、オオタカ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、夏鳥としてハチクマ、ツミ、サシバ、冬鳥としてハイタカ、ノスリ、チュウヒなどの希少な鳥類の生息地となっていることが確認されています。2022年11月に前田建設工業株式会社が「(仮称)南あわじ風力発電事業 計画段階環境配慮書」を公告・縦覧しましたが、仮にその計画通りに事業が実施されれば、計画地における渡り鳥の飛翔ルートの変化や消失、希少鳥類の生息環境の消失といった影響が生じることは避けられません。私どもは、これらの鳥類の生息環境保全の観点に基づき、対象事業を見直しも含め大幅に計画を変更するよう事業者に対し指導すべく、厳しい環境大臣意見を述べてくださることを強く要望いたします。

2. 当該事業の計画を中止とすべき理由

(1) 淡路島全域が国内における渡り鳥の主要な渡りの中継地になっている

配慮書では、文献調査により、計画地での重要な鳥類として94種の鳥類を記載しています。

計画地がある淡路島には、春と秋の渡りの時期に淡路島を南北に縦断して鳴門海峡と明石海峡を通過する鳥類の個体群と、南あわじ市を東西に横断して鳴門海峡と友ヶ島水道を通過する個体群が存在し、南あわじ市は東西南北に通過する渡り鳥が集中する場所(ボトルネック)であるため、これらの渡りルートにおいては自然環境の保全がきわめて重要です。

バードストライクや障壁影響など風車の建設による影響を受けやすい猛禽類、特にサシバでは、気象条件によっては渡りルートが東西に偏ることから、ルートは線状でなく帯状になっているものと考えべきであり、計画地は渡りルートの圏外とは言えない状況となっています。

配慮書では「渡り鳥・猛禽類等の鳥類及びコウモリ類が事業実施想定区域上空を利用することを加味した影響を予測するには、風力発電機の設置位置等の情報が必要となるため、事業計画の熟度が高まる方法書以降の手続きにおいて、適切に調査及び予測・評価を実施する」とありま

す。しかし、過去には渡り鳥が明らかに計画地を通過している記録があることから、計画地内に
おける風車の設置位置の微細な変更では、渡り鳥への影響を回避・低減することはできません。

(2) コウノトリが風力発電施設（以下、風車という）に衝突する可能性がある

兵庫県が豊岡市で国の特別天然記念物、国内希少野生動植物種であるコウノトリの野生復帰事業を進めており、近年では野外での繁殖個体が県外にも広がっている状況にあります。2019年に計画地に極めて近い場所（阿那賀）で2羽のコウノトリの飛翔が観察されましたが、昨年（2021）から淡路市内の送電鉄塔でも営巣するようになってきていることから、今後、さらに計画地に飛来する個体が増える可能性があると考えます。なお、2021年には阿万の吹上浜で観察されています。

コウノトリは、サギ類と同様に水辺に住む大型の鳥類ですが、長距離を移動する場合は風車の建設の適地になりやすい上昇気流が強い山稜を飛翔することが、但馬地域の新温泉町で確認されています。広域を移動するコウノトリは山稜を利用することが多く、本州と四国の間の移動中に、計画地にある山稜に建設された風車に衝突する可能性を強く懸念しています。コウノトリをはじめガン・ハクチョウ類やツル類のような大型の鳥類は飛翔中に風車を避けて飛ぶことが苦手で、世界的にも風車に衝突しやすい鳥として認識されています。

(3) 渡り以外の猛禽類について

配慮書に「重要な鳥」として挙げられている種の中には、留鳥としてミサゴ、オオタカ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、夏鳥としてハクマ、ツミ、サシバが記載されています。

これらの種については、風車に対する衝突防止策だけでなく、繁殖のための営巣場所と餌資源を損なうことがないように、計画地の生物多様性を保全しながら実施可能な工法を用いる必要があります。

また、越冬する鳥類としては、留鳥と冬鳥のハイタカ、ノスリ、チュウヒが記載されています。これらの鳥類は計画地で頻繁に探餌やハンティングを行っています。探餌中の猛禽類は顔を地面に向けたまま飛翔しており、また、ハンティング時は目標の獲物に神経を集中させるため風車が目に入っておらず、風車の存在を認識することが難しいため、探餌やハンティングが頻繁に行われる場所に風車を建設すると、バードストライクが発生する可能性が高くなります。

(4) その他の希少種について

絶滅危惧のランクが高い種として、カリガネ、ツクシガモ、ウミスズメ、シギ・チドリ類の多くが記録されています。ガンカモ類は体が大きい割に翼が小さく飛翔時に小回りが利きにくいこと、シギ・チドリ類は飛来または飛去時にひとまとまりの群れとなって飛行することから、水鳥の多くは飛翔して内陸部に入った場合には、風車との接触が危惧されます。

以上のことから、計画地に風車を建設すると多くの渡り鳥や繁殖する鳥類でバードストライクや障壁影響などが発生すると考えられますが、計画地周辺の鳥類生息状況や行動圏を鑑みると、計画地内においてはどこに風車を建てようともそれらの影響回避することはできないと考えます。そのため、貴職は事業者に対し、当該事業の見直しも含め大幅に計画を変更させ、国内でも有数の渡り鳥のルート及び希少鳥類の繁殖地を保護してくださることを要望いたします。

以上

<参考文献>

- ・小畑義之、1988、'87.ワシタカ調査の結果についてコウノトリ.48 日本野鳥の会兵庫県支部
- ・小畑義之、1989、'88年のタカの渡り一斉調査の結果と81年からのタカの渡り調査の経過について、コウノトリ.50、日本野鳥の会兵庫県支部
- ・鳥信、2000、コウノトリ、119、日本野鳥の会ひょうご
- ・鳥信、2019、コウノトリ、230、日本野鳥の会ひょうご
- ・鳥信、2021コウノトリ、247、日本野鳥の会ひょうご
- ・鳥信、2018、コウノトリ、228、日本野鳥の会ひょうご
- ・鳥信、2020、コウノトリ、235、日本野鳥の会ひょうご